

Slippery Rock University presents
スリッパリーロック大学 学生展示

An Echo Of Visions エコー・オブ・ビジョン



Artists
学生アーティスト
Daniel Cooley
ダニエル・クーリー
Paula Ott
ポーラ・オット
Uriel Hall
ユリエル・ホール

May 16-22, 2025
令和7年5月16-22日
Saga University Museum
佐賀大学美術館

ダニエル・クーリー（4年生）

『神の描写』は、人間性を追及した昔の神話を描いた3枚の作品から成っています。昔の神話や神々の中から、人間性を強く持った神を3人選び、現代の視点で表現しています。ガイアは生命と自然のエネルギーを表し、その優雅な姿は生命の美と威厳の道しるべとなっています。マレディクトは、死と腐敗のエネルギーを表し、グロテスクで栄養失調のような姿は死と破壊が後に残す悲惨さを思い起こさせます。タイタンは、世界の闇と光の真のバランスを表し、取れた手は混乱の象徴で、冒涇された彫刻のようです。スリッパリーロック大学で学んだ芸術的手法、特にコントラポストの立ち姿を取り入れています。

ポーラ・オット（3年生）

『Depth of Mind』は、人間の精神やその可能性について、世界的な哲学的思想を色濃く反映した作品です。私たちの思考や経験の在り方については何千年もの間議論されてきており、今なお、心という未知なる領域を探求し続けています。本作では、議論の的となる6つのカテゴリーを通じて、人間精神の深層に迫ることを試みています。

ユリエル・ホール（2年生）

『もしも～だったら』は、アメリカの未確認生物と日本の妖怪を比較・探求した8枚の作品から成っています。作品では、コントラストを強調するために、明るい白を基調に暗い黒のインクを使っています。何時間も研究を重ねるうちに、アメリカの未確認生物と日本の妖怪が大変異なるものでありながら、同時に類似するものでもある事に気づきました。この作品を使った、友達と遊べる楽しいカードゲームも作っています。今回の作品に採用した妖怪も採用しなかった妖怪も、それぞれの能力や、その背後にある文化について学ぶことが楽しかったです。ホラーインクをベースにしたスタイルの作品ですが、伊藤潤二や藤沢ゆき、ショーン・コスなどからインスピレーションを受けています。これらの作品は単なる異文化の象徴ではなく、歴史や意味を理解し、さらには、自身が慣れ親しんだ文化以外と繋がる意思を表しています。私の作品により、文化にバランスをもたらし、他の多くの芸術家を刺激し、例え小さくても自身の傑作を作るきっかけになってくれればと思います。